



「教職の魅力」を考える 4

～ かながわティーチャーズカレッジ ① ～

令和6年6月 神奈川県立総合教育センター

神奈川県立総合教育センターでは、教育人材の確保に向け、教員を志望する大学生等を対象に「かながわティーチャーズカレッジ」を実施しています。そこでは、参加の皆さんが教職に求められる使命感と責任感を持ち、多様な教育的ニーズに対応する実践力の向上を図るとともに、本県の教育についての理解を深めることを目的として、現職教員や指導主事等を講師とした講座の受講や、学校現場における体験が行われています。受講された皆さんの声を紹介します。

子どもに身に付けてほしい力

- ・学校が、全ての子どもたちにとって居心地の良い場となるように変革していかなければならないということを学びました。「今の時代に合っていない、子どもたちのためになっていないものはないか。」という視点に立って、自分の授業や学校について考えることを心がけていきたいです。
- ・集団で生活する学校だからこそ身に付けられるような、他者との関わりの中で培われる力を特に大切にしていきたいと思いました。
- ・小学生の時、学校が「インクルーシブ」を強く推していたのを思い出しました。当時は深く理解できませんでしたが、他者との関わり、繋がりを上手に成立させていくことが必要だと感じました。
- ・「教える」ことは、子どもたちがいて初めて成り立つ行為です。子どもたちが生きていく基盤となる力を育むことです。時代に即した手立てがとれるよう注意していきたいと考えました。
- ・「子どもに身に付けてほしい力」や「教職の魅力」について学びました。グループ協議では、「リスペクト・アザース」や「自己肯定感」が、豊かな人生を送るための力になるという意見が多く出ました。また、教職は、他では得られない経験ができる魅力があることを知り、子ども一人ひとりに寄り添う教員を目指したいと感じました。

求められる教職員像

- ・目指したい教職員像を考えることは、今の自分を考え直すことにもつながって、とても良い時間になりました。「信頼される人になるため、信じ続けること」「学び続けることの大切さ」が特に重要だと思いま

した。グループ協議を通じて、自分とは違う意見にたくさん出会い、とても勉強になりました。何事にも挑戦し、成功体験を今から増やし、教員になった際には、子どもたちにもその姿勢を見せていくことができるよう行動に移したいです。

- ・学校勤務を続けてきて、多様な価値観をもつ人達に出会ってきました。自分に合う価値観はすぐに受け入れやすいが、自分とは合わないものには心のどこかで拒絶していました。ただ、今日の講座であったように、多様な背景、個性がある子ども、保護者、同僚、地域の方々などと協働していくためには、自分とは違う価値観も受け止め、受け入れていく必要があると分かりました。私自身、全く完璧ではないのに、自分の物差しだけで物事を測っていたように思います。これからは、多様な価値観を認め、たくさんの物差しがもてるよう心掛けていきたいです。
- ・私は、学び続ける向上心をもつ教師であるために、物事に対し疑問を持つようにしようと思います。疑問が持てるようになるには、自分の中の今までの「あたりまえ」を崩していくことが第一歩なので、一つひとつ深く考えていきたいと思っています。
- ・今回の講座で、「教師が子どもを信じる気持ちを常に持ち続ける」という言葉がとても印象に残りました。小学校ボランティアに行った際に、子どもは時に自分の想像を越えるような行動をする事があり、その度に裏切られたという気持ちになる事が多かったのですが、今回の話を聞いて、人格形成の大切な時期に教師側が子どもに対して一歩踏み出して、信頼する姿を見せる、子どものお手本になるのが大切なのだと分かったので、今後心がけていきたいと思いました。

コミュニケーションカ

- ・心理的安全性に興味があったので、今日の講義の「コミュニケーション」の内容はとても勉強になりました。相談を受ける側が、答えをすぐには提示せず、導いていくことの難しさを学びました。グループ活動では「話しやすかった先生」を思い出しながら、目指すべき教員の姿をイメージすることができました。安心感や信頼を与えるのに必要なことは、言葉だけでなく態度がほとんどだと思うので、態度で示せるような教員にならなければいけないと思いました。コーチングやグループワークで学び、感じたことをもう一度整理し、これからの生活の中のコミュニケーションを変えていきたいと思いました。
- ・今回の講座では、「ジャッジしない」という姿勢が、私にとって新鮮でした。今、勤めている学校でも、様々な問題や相談事を抱えている子どもがいます。その中で、自分の考えを「〇〇だ」と相手に押しつけている可能性があることに悲しくなりました。物事に対して多面的・多角的な受け止め方、考え方ができるようになりたいです。このような意識を持ち、実行することが、相手を尊重し、コミュニケーションの幅を広げることにつながると考えました。
- ・今日の講座をとおして、傾聴や受容の大切さや難しさを痛感しました。「どんな理由があっても、友達をなぐってしまうのは良くない」と子どもに一方的に言ってしまった経験があります。一方的に決めつけてしまうと、「わかってくれない」と子どもが殻にこもってしまうことも考えられるため、まずは、行為に至ってしまった要因や背景を受け止め、寄り添うことが大切だと考えました。その上で、「なぜしてしまったのか」「どのような気持ちだったのか」という部分に触れ、「先生と話したことで間違いに気づけた」と思ってくれるようなコミュニケーションをしていきたいと考えます。
- ・誰かから相談された際には、解決策を考えてあげなくてはいけないと思いながら聞いていました。しかし、聞き手が解決策を与えるのではなく、話し手が解決策を導き出せるように選択肢を与え、自己決定ができるように支援してあげることが大切だということ

が分かりました。カウンセリングマインドの受容、共感、傾聴のどれか1つでも欠けてしまうと、よいコミュニケーションはできないとロールプレイングをやってみて感じました。

- ・今回の講義では、「ネガティブ発生」→「ネガティブ発見」という考え方が印象的でした。ネガティブな言葉を聞くと、ついポジティブな言葉に変換しようとしたり、ポジティブになるようなことを提案したりといったことを考えていました。しかし、ネガティブを見つけた時に、「隠れていたものを見せてくれた」と捉えることで、その子がネガティブになってしまった背景にアプローチできることが分かりました。これから、子どもや保護者、地域の方々と関わるうえで、まずは「相手の言葉に耳を傾ける」ことを心がけたいと思います。
- ・「子どもとの距離感」や「嘘をつかない」など、コミュニケーションのスキルだけでなく、「教科への愛」や「プロフェッショナルな知識」なども、信頼関係を築く上で大切だと学びました。
- ・何かを相談された時、その内容に集中してしまい、「話してくれてありがとう」と感謝を伝えることを忘れていました。こうした日々の心掛が、私が目指す教師像である「子どもたちにとって安心できる存在」に繋がっていくと考えています。

「いじめ」を考える

- ・子どもたちは、辛かったりしんどかったりしても声に出せないことが多いと思う。やはり教師が話しやすい雰囲気を作ること、信頼できる存在であることが大切と考えます。日常的にたくさん話し、コミュニケーションを図ることで、信頼関係を構築したい。
- ・いじめは、被害者の救済はもちろんだが、加害者側へのアプローチも大事であると思います。だめだということを伝えるだけでなく、なぜそうしてしまったのか、もしくは加害者側にも悩みがあって、攻撃という形をとってしまったのかもしれないと、思いを馳せながら関わっていく必要があると感じました。

多くの声を寄せていただき、ありがとうございました。次号でも、受講された皆さんの声を紹介していきます。